

南アフリカ為替週報

2022年9月15日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

<過去1週間の動き>

(9月8日～9月14日)

USD/ZAR: 16.9150～17.5425
ZAR/JPY: 8.16～8.37 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下押しの先行から、反発、その後再び急落と上下動した。8日のランド下押しの要因は、同日発表された南ア第2四半期経常収支の予想外の赤字転落。市場予想の中央値が850億ドル(GDP比+0.8%)の黒字であったところ、発表は870億ドル(同-1.3%)の赤字だった。9日以降のランド反発には、並行した資源価格の反発が寄与したものと考えられた。とりわけ、南ア主力輸出産品であるプラチナの堅調は目を引いたが、実のところ、これは、8日の時点で、南ア大手プラチナ生産会社が、同社精錬所再建の遅れを理由に、2022年生産見通しを大幅に引き下げていたことが主因と目された。13日のランド急反落は、同日発表された米8月CPIの上振れ(前月比-0.1%への減速が予想されていたところ、発表は同+0.1%だった)を受けたドル高の裏返し。ただし、並行して対円でもランドは明確に反落したので、この局面の値動きには、ドル高に加えて、米連銀による積極的な追加利上げが、米経済のみならず世界経済の急減速=資源需要減を招く恐れという文脈で、とりわけランド(資源通貨)に売り圧力を供給した結果でもあったと言えただろう。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/8	9:00	経常収支(ZAR)	Q2	-87bn	+85bn	+157bnr
	11:00	製造業生産(前年比)	7月	+3.7%	+4.1%	-3.4%r
9/13	9:30	鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%	-8.7%	-7.1%r
9/14	11:00	小売売上高(前年比)	7月	+8.6%	+8.6%	-2.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(9月15日～9月21日)

USD/ZAR: 17.200～17.600
ZAR/JPY: 8.10～8.30

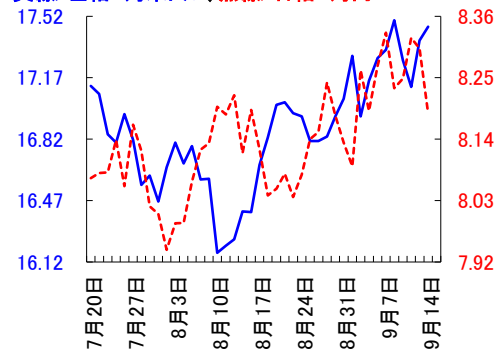
向こう1週間の南ア・ランド相場は、足元水準における横ばいを予想。過去2年余りを振り返れば、安値圏における膠着の継続とすることができる。敢えて変動を見込むなら、引き続き、ランド上昇方向の値幅が出る可能性を警戒する。膠着を見込む理由は、足元ランドの値動きを作った要因に、交錯した構図を読み取るから。交易条件の改善(資源価格高+ランド安)を追い風とした南ア貿易/経常収支の大幅改善は、20年央～21年央に掛けてのランド堅調の主因と言え、今般の経常収支赤字転落が、ランドにとって決定的な悪材料である事実は否めない。ただ、赤字転落の主因は第1次所得収支の大幅赤字拡大(前期比-1,516億ランド)と言われ、資源価格高騰を受けた外資企業(主に鉱業ということになる)の本国への配当送金を反映した動きと考えられた。つまり、資源価格高騰というランドにとって基本的な上昇要因が、経常収支悪化というランド売り要因を招いた構図になる(注1)。一方で、商品貿易黒字も大幅に減少しており(同-1,007億ランド)、配当だけを経常赤字転落の要因と言うには些か無理も感じられたが、単純に月次貿易収支の数字を積み上げると第1四半期(1～3月)は+614.3億ランド、第2四半期(4～6月)は+712.0億ランドとむしろ黒字が増加しており、経常収支統計とは平仄が合わない。また、米連銀の積極的な利上げ継続を見込む観測の背景にも、資源価格高止まり=物価高止まりの影響が少なからずある。こうして考えると、資源価格とランドの連動は複雑に入り組んだ構図を持っており、ランドの今後を占う上でも、一筋縄ではいかないように思われる。ランド反発を警戒するのは、物価動向、景気動向などの尺度が、ある程度各国/経済に共通する(注2)と考えると同時に、足元ランド水準が既に「割安」の領域にあると思われるから。視点を変えるなら、南ア準備銀の金融政策運営や与党アフリカ民族会議(ANC)党首選(12月)とその先を見越した南ア政治運営が、他国/経済との比較で(現時点で市場が織り込んでいる以上に)信頼に値すると考えるからだ。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/21	8:00	CPI(前年比)	8月			+7.8%

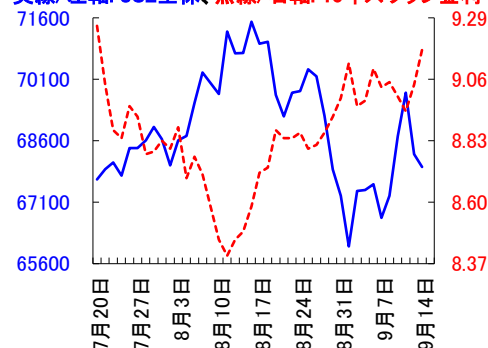
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	9月14日	9.170%
株価指数(JSE全株)	9月14日	67964.02
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	7月	+7.8%
小売売上高(前年比)	7月	+8.6%
製造業生産(前年比)	7月	+3.7%
鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%
貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn
金価格(ロンドン17:00)	9月14日	1703.83

(注1) ただし、プラチナ、金などの南アの主力資源価格は3月中にピークを打って、第2四半期中はむしろ軟調気味に推移していたので、資源価格上昇とその配当との間には若干の時差があったことになる

(注2) 少なくとも「西側」と呼ばれる国/経済との比較において

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。